



心に響く演奏をするため
日々練習を重ねる



3月に東京で開催された日本ジュニア管打楽器コンクールソロ部門ホルンの部中学生コースで、沖水中学校3年の星野基信さんが見事、全国2位にあたる銀賞に輝きました。

管楽器や打楽器分野のジュニアコンクールとして、次世代の演奏家である小・中学生と高校生を対象に、毎年開催されている同コンクール。ソロ部門とアンサンブル部門があり、各部門ごとにCD音源審査の全国予選を通過した数人が、東京で行われる本選に駒を進めます。

smiling faces of miyakonojo

の風景

星野さんは2月に行われた予選を見事突破し、本選に出場。沖水中学校吹奏楽部顧問の池田健先生の伴奏で、予選でも演奏した「ヴィラネル（田園詩）」を演奏し、高い評価を得て銀賞を受賞しました。小学6年生のときにも出場し、同コンクールのときに経験した星野さん。「とても緊張感のあるステージ。当時はその雰囲気、に圧倒され、納得いく演奏ができなかった。だからもう一度挑戦しよう」と思い、出場した」と今回のコンクールに掛けた思いを振り返ります。

「ホールや客席をイメージしながら練習を重ねた。結果は銀賞だったが、納得のいく演奏ができた」と満足げに話していました。

小学2年生で吹奏楽部に入学した星野さん。入学した当初はサクソフに憧れていましたが「君の口の形は金管楽器に向いている」という顧問の一言に導かれ、金管楽器であるホルンの練習を始めました。現在は、沖水中学校吹奏楽部で池田先生の指導の下、日々の練習に励み、コンクールのほか高齢者施設での慰問演奏や地域のイベントなどに仲間と一緒に参加し、演奏を行っています。また、部活がない日でも、楽器を持ち帰り家での練習を欠かしません。



日本ジュニア管打楽器コンクール
ソロ部門ホルンの部
中学生コース 銀賞

もとのぶ
星野 基信さん

(沖水中学校3年)

「音楽大学に進み、知識や表現力をさらに鍛えたい」と飽くなき向上心を見せる星野さん。「プロの演奏家になって、多くの人の心に響く演奏をしたい」と目を輝かせながら将来の目標を話していました。